



ハイブリッドとは(今回の定義):
学生が学習環境と学習支援を図書館内でもオンラインでも利用できる環境

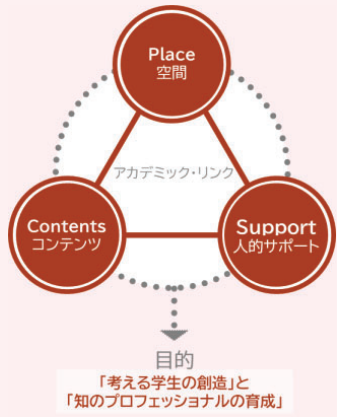
1.概要説明

1.1アカデミック・リンクとは 教育・学習のためのコンセプト

- 生涯学び続ける基礎的な能力と知識活用能力を持つ
「考える学生の創造」→学部学生支援
- 深い専門性と俯瞰的思考力を備えた
「知のプロフェッショナルの育成」→大学院生支援



(参考)アカデミック・リンクとは
<https://alc.chiba-u.jp/entry/concept.html>



1.2コンセプトの共有方法

全職員参加の館内ワークショップ（WS）を実施

- 第1回 2015年:コンセプトから目標の共有
「学生ニーズの実務還元を目指して」
- 第2回 2017年:改善の方向性をみんなで考えよう
「学修空間改善を目指して」
- 第3回 2022年:目標自体をみんなで考えよう
「ハイブリッド型学習支援・環境整備の検討」



WSでのグループワーク

1.3ハイブリッド型学習検討の背景

- 2022年はコロナ禍を経て対面での授業やサービスが戻ってきた時期
 - 対面とオンラインを併用したサービス提供の方式を模索
- 入学時からハイブリッド型学習環境が前提の学習スタイルに変化
 - 1人1台端末持参、オンライン授業と対面授業の併用

→このような学生の変化に対応した支援を提供するため検討を開始

提供中の
ハイブリッド型
学習支援

学習相談
調べもの相談
PCサポート▶

セミナー
イベント▶

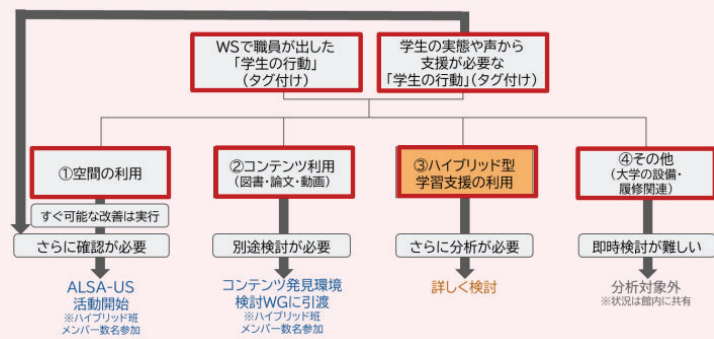
学習研究情報提供
ポータルサイト
EyeL! / EYRJ!▶

2.ハイブリッド型学習支援の検討方法

2.1WSで出た意見の仕分け

支援が必要な学生の全行動をタグ付けし、下記のグループに仕分け

- ① 空間の利用
- ② コンテンツ利用
- ③ ハイブリッド型学習支援の利用
- ④ その他



タグ付けの対象データ：WSのデータ + 学生の実態データ※
※全学対象のアンケート調査結果（自由記述部分）や学生へのインタビュー

2.1.1仕分けの結果

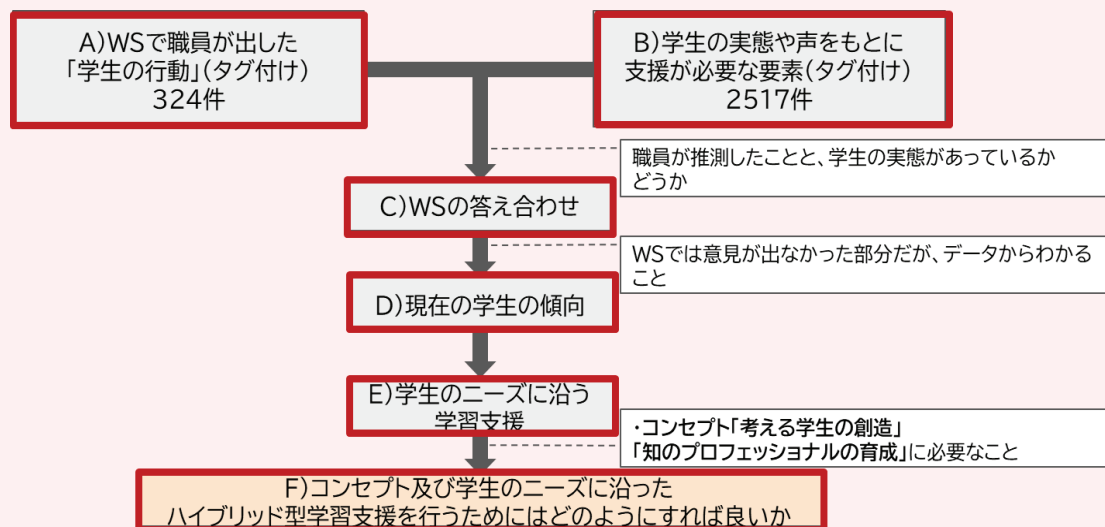
③「ハイブリッド型学習支援の利用」に含まれる行動のタグ

①空間の利用	②コンテンツ利用 (図書・論文・動画)	③ハイブリッド型 学習支援の利用	④その他 (大学の設備・ 履修関連)
図書館の空間を使う グループ学習 発話する(メディア 授業/一人) 設備・機器を使う 休憩する 飲食する 寒がる/暑がる 中庭を使う コンテンツ制作室を 使う 資料を印刷する 学習する 他の学生の様子を 見る	資料を探す 資料を探す(検索) 資料を探す(探しに 行く) 資料を探す(入手す る) 資料を探す(利用す る) 電子資料を探す	相談する 情報を得る 図書館のサービスを使 う	学習する 図書館以外のサー ビスを使う インターネットを使 う

- 相談する
- 情報を得る
- 図書館のサービスを使う

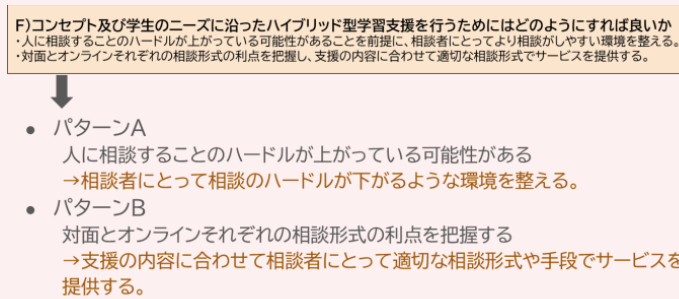
①②④の行動については、他の
ワーキンググループ等で検討する

2.2ハイブリッド型学習支援検討の流れ



3.実際の改善事例

3.1「相談する」タグが付与された学生の行動を支援するための サービスの改善事例

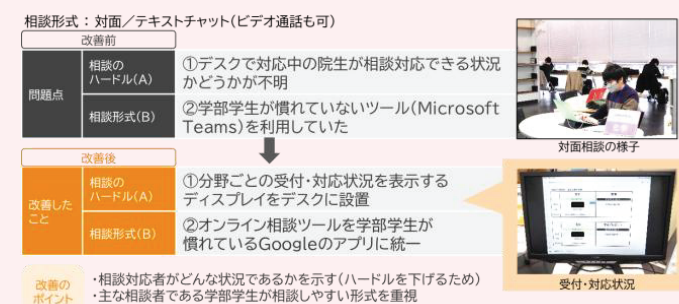


- ① 2.2の分析結果“F”に基づき、改善
の方向性のパターンを見つける
- ② パターンごとにどのような支援が
必要か検討

3.2具体的な改善事例

3.1②のパターンを個別のサービスに適用し、改善を検討

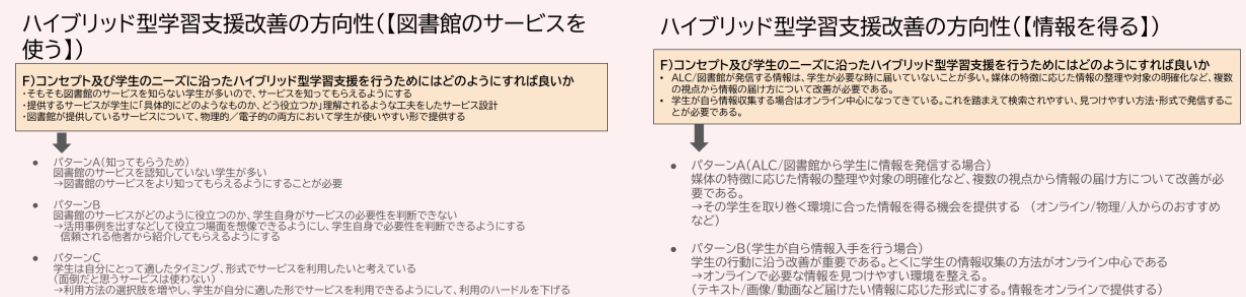
例) 大学院生による学習相談



3.3他のタグが付与された行動について

「情報を得る」や「図書館のサービスを使う」のタグ（2.1.1参照）を
付与した学生の行動に対する支援

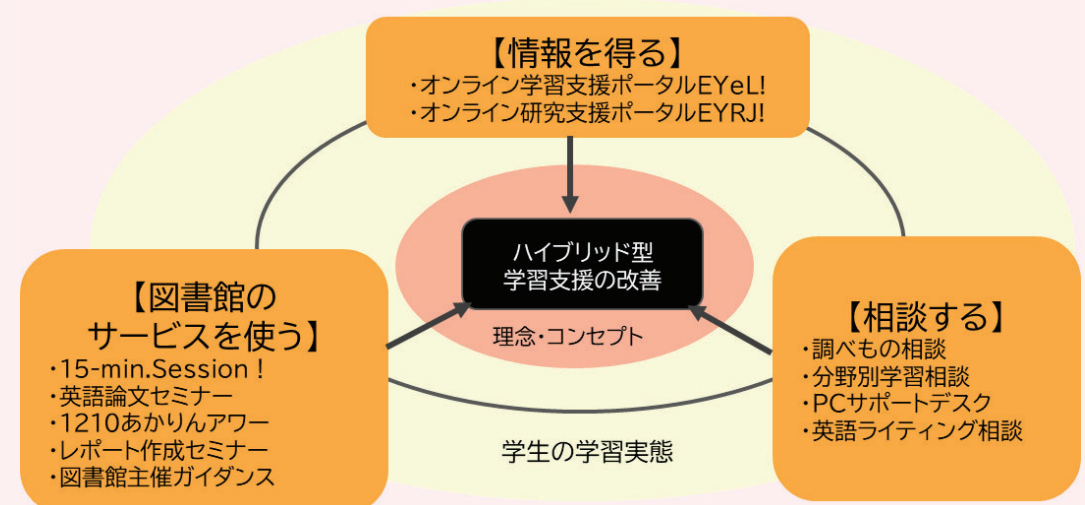
→同様に各タグの分析結果と改善の方向性から各サービスの改善を検討実施



4.まとめと今後の課題

4.1ハイブリッド型学習支援全体の改善に必要なこと

- 相談する・情報を得る・図書館のサービスを使う に含まれる学生の行動と
それに対応するサービスはそれぞれ関連しているため
- 全体を意識し、理念やコンセプトに沿った改善が必要
- 実現には課や担当業務を超えた情報共有・意見交換の機会が重要



4.2今後の課題

- 今回の検討は支援が必要な学生の
行動のうち一部のみを対象とした
- 今後、全体を通しての検討が必要

→総合的に検討することで支援の幅が
広がる可能性がある

5.我々が大切にしてきたこと

- 自らの活動をWS等で振り返り、**学生の動向を調査したうえで、注力すべき方針を検討**
- 職員の意見だけで判断せず、当事者の意見（学生インタビューやアンケート結果）も取り入れること
- 知識と経験とあわせて、**データに基づき方針を決定**してサービスを再設計する意識
- WSのように**コンセプトを共有する機会**をもつことで、全員が同じ方向を向き、状況に合わせて機動的に動ける状態の維持